

洋上風力発電の国内外の事業動向と技術開発

～排他的経済水域 (EEZ) への展開とコスト高での事業性～

— 講 師 — 東京大学 名誉教授／世界風力エネルギー学会 副会長
荒川 忠一 氏

日 時 2025 年 9 月 30 日 (火) 午前 10 時～午後 0 時 30 分
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信 (2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 紀尾井フォーラム 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 1F

〔重点講義内容〕

風力発電の概要のあと、主要電源のひとつとなっている洋上風力発電の事業動向と技術開発の内外の最新情報を解説する。再エネ海域利用法に基づき、洋上風力発電の計画はラウンド 3 まで事業者が決定し、さらに膨大な排他的経済水域 (EEZ) への展開と大きな進展を見せている。

一方、ウクライナ問題などに端を発した国際的な資材不足と価格高騰により、事業撤退の可能性を表明する事業者も現れている。風車メーカーが存在しない日本において、2050 年のカーボンニュートラル政策に向けた洋上風力の健全な発展・普及に向けた議論を行う。

1. 風力発電のはじめに
2. 洋上風力発電の内外の現状
3. 再エネ海域利用法に基づく洋上風力発電のプロジェクト
4. 洋上風力発電の技術と風車
5. 洋上風力発電の案件形成と地域振興
6. カーボンニュートラルを目指す日本の洋上風力発電の進展
7. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 荒川 忠一 (あらかわ ちゅういち) 氏

1951 年 4 月 宮城県生まれ。1970 年 3 月 宮城県古川高校 卒業、同年 4 月 東京大学入学。1974 年 3 月 東京大学 工学部機械工学科 卒業。1980 年 3 月 同 大学院博士課程修了 工学博士。1980 年 4 月 東京大学 工学部 講師、翌年 助教授。1985 年 4 月 ドイツ・カールスルーエ大学客員研究員 (1986 年 8 月まで)。1996 年 2 月 同 大学院工学系研究科 教授。2000 年 4 月 同 情報学環教授兼任 (2006 年まで)、総長補佐 (2001 年度)。2017 年 3 月 定年により退職 東京大学名誉教授、現在に至る。2017 年 4 月 名古屋大学大学院環境学研究科 客員教授 (2019 年 3 月まで)。2018 年 4 月 京都大学大学院経済学研究科 特任教授 (2023 年 3 月まで)。

およそ 50 年、東京大学で教育、研究活動を行った。専門は機械工学、数値流体力学、メディア芸術。2000 年より風力発電の研究を開始。2007 年以来、世界風力エネルギー学会副会長。政府 (経産省、環境省、内閣官房など) の政府委員を務める。海洋基本計画の委員会、洋上風力のロードマップを提案。現在、再エネ海域利用法に基づく法定協議会などにおいて、洋上風力発電促進と地域振興に協力。

